

CELLISSIMO



CELLISSIMO
GRANDIOSO

2005年に開催された「第3回1000人のチェロコンサート」の様様。
このときは、今は亡き、ロストロポーヴィチ氏の指揮で、全員で心一つにしました

Vol.
14

「第4回1000人のチェロ・コンサート」に力を結集しよう!

<http://1000cello.vc/>

「第4回1000人の
チェロ・コンサート」
開催について

松本巧事務局長より

【経緯】

1998年11月に、神戸で阪神・淡路大震災復興支援と国際平和を祈念して「第1回1000人のチェロ・コンサート」を開催しました。

次いで2001年7月に、再び神戸で「第2回1000人のチェロ・コンサート」を世界各地から5人のマエストロチェリストを招聘して、行ないました。

2005年5月には「インターナショナル・チェロ・コンングレス in 神戸2005」の一環として、その最終日にロストロポーヴィチ氏の指揮で「第3回1000人のチェロ・コンサート」を開催しました。その模様が上の写真になります。

2006年10月には、「中越地震復興支援チャリティーコンサート」を山古志村など3カ所で行ないました。そのコンサートの打ち上げの席で新潟から参加してくださった一人のチェリスト、角谷輝彦さんがこう言われました。「1000人のチェロは神戸での第1回からこの中越地震復興支援チャリ

ティーコンサートを含めて、復興支援コンサートばかりやってきて、最初の目的のもう片方の【国際平和を祈念したコンサート】をやるべきではないか。それは広島をおいてほかはないのではないだろうか」と。

私たちは、この一人のチェリストのご意見を3年かけて実現することを決意するに至りました。

第1回から第2回まで3年間、第2回から第3回までが4年間、第3回から第4回まで5年間と、だんだんインターバルが長くなっていく傾向がありました。

しかし、私たちは今回は初めて「平和」だけをテーマに開催することに、しかも世界で初めて原爆を落とされた広島での開催を決心したのでした。



また皆さんに逢える、そう思って日本各地から、そして世界各地からチェリストたちが集まってきます。今度は、広島で、世界の平和をアピールしましょう

開催日：2010年5月16日(日) 14:00 開演

開催地：広島グリーンアリーナ

目的：～広島から世界平和の願いを込めて～

詳細：特設HPに掲載 <http://1000cello.vc/>

参加費： NPO 会員 8,000 円 非会員 10,000 円 (学生以下半額)

募集締切： 2010年3月31日

練習日程： 各地での分奏練習、公式練習の予定はHPで紹介されています。

【お願い】

この会報を読まれた方にはどうか周りのチェリストの方々へのお誘いを紙面をお借りしてお願い申し上げます。

そして、2010年5月16日(日)14時からの「第4回1000人のチェロ・コンサート」にはぜひ、ご家族やご友人をお誘い合わせの上、ご来場ください。

そして、世界平和を願って過去に1000人のチェロに出演して下さったアーティストチェリストの方々も参加して下さいます。



コンサートマスター 林俊昭氏



指揮 田久保裕一氏



独奏・指揮 D・ゲリンガス氏

【ゲスト】 ゲストには指揮にデヴィッド・ゲリンガス氏、田久保裕一氏、コンサートマスターに林俊昭氏をお迎えします。

ミュンヘン・フィルのハック氏、パリのO・ブーラン女史、ソウルの新先、新顔としてパリのベアトリーチ・フィッシュャー、デイスカウ女史(パリトロン歌手フィッシュャー、デイスカウ氏の娘)、ベトナムのガー女史、モスクワのアンドリヤノフ氏、そして1000人のチェロ生みの親のヴァインスマイヤー氏などです。ゲリンガス氏はコンサート冒頭、アカペラで「鳥の歌」をソロ演奏していただきます。

【実行委員会】

中越地震復興支援チャリティコンサートに参加された仙台のチェリスト高坂知節さんご紹介で、現在(財)広島文化財団の常任顧問の原田康夫先生が、実行委員長を務めてくださいます。同氏は元広島大学学長で、世界でも珍しい公立大学構内に「オペラハウ

ス」を作ったり、本業の耳鼻咽喉科医の傍ら、音楽大出身のテナー歌手としての側面もお持ちで、78歳の今なおオペラ本番で主役を歌ったりしておられます。地元広島市の秋葉市長から請願されて同市病院管理者として市内病院の改革に手腕を発揮され、現在は、やはり秋葉市長からの依頼により広島市の文化施設の管理者として文化面で手腕を発揮しておられる方です。

また、過去に協賛会社としてご支援くださった全国規模の有名企業も引き続きのご支援をいただきますが、新たに地元企業からのご支援も期待できる場所です。 私たちがもつとも心配することは「参加して下さるチェリスト数」とコンサート当日の「観客数」です。前者は11月末現在で約400名のお申し込みをいただいております。 年内に600名の申込者数を目指してNPO国際チェロアンサンブル協会の理事を中心に活発にお誘いを展開している最中です。

【初めての神戸以外での1000人のチェロ・コンサート開催】 前述のとおり、実行委員会組織は原田先生のおかげで地元挙げてのコンサート開催への見通しがつきました。

会場の広島グリーンアリーナは客席が4500席を超え、神戸ワールド記念ホールの3500席をはるかに凌ぐ容量です。やはり7/8割の客入りを目指して、年内のチケット販売開始から積極的に観客誘致に動きたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

「第4回1000人のチェロ・コンサート」実行委員会

大会会長	秋葉 忠利	広島市長
大会名誉委員長	山本 治朗	(株)中国新聞社社長
大会実行委員長	原田 康夫	広島市文化財団常任顧問
大会実行委員	平田 光章	広島県環境県民局長
大会実行委員	皆本 也寸志	広島市市民局長
大会実行委員	高木 一之	公益(財)ひろしま文化振興財団理事長
大会実行委員	生田 文雄	(財)広島市文化財団理事長
大会実行委員	大田 哲哉	広島商工会議所会頭
大会実行委員	深山 英樹	広島経済同友会代表幹事
大会実行委員	川本 一之	(株)中国新聞社社長
大会実行委員	安東 善博	(株)中国放送社長
大会実行委員	松田 哲也	広島青年会議所理事長
大会実行委員	中村 英昭	エリザベト音楽大学学長
大会実行委員	柳田 邦男	ノンフィクション作家
大会実行委員	白沢 史子	NPO 国際チェロアンサンブル協会副理事長
大会実行委員	中村 幸太郎	NPO 国際チェロアンサンブル協会理事
事務局長	松本 巧	NPO 国際チェロアンサンブル協会理事長

すでに分奏練習が始まっている大分から柳澤明日花さん(小2)の思いが届きました!

初めて、1000人のチェロコンサートの楽譜を見た時は、「むずかしそうだなあ。わたしに弾けるかなあと」心配でした。最初、家で一人で練習しても、あまり上手に弾けませんでした。一回目の合同練習で、みんなでチェロを弾くと音が大きくなってびっくりしました。いろいろなパートの音が合わさると、とてもきれいなハーモニーが聞こえてきました。一人で弾くよりも上手になった気がしました。そして、みんなで弾くと、とても楽しいです。私のチェロの先生は、厳しいけれど近くにいるわからない時は、すぐ来て教えてください。先生やみんなと一緒にコンサートに出ることがとても楽しみです。



私は、パッサカリアが好きです。スタッカートやピチカートでリズムをきざむと、心が落ち着いてうれしくなります。私の音に、いろいろな人の音がかさなって、チェロの音色がとてもきれいでステキだなあと思います。自分の知らない1000人の人と心をあわせてすてきな音楽にしたいです。そして、この音楽を世界の人に届けたいです。

過去に1000人のチェロ・コンサートに参加された方で、直前でもアンサンブル可能な方は、公式練習「4回参加」を「2回参加」に免除します。

「第4回 1000人のチェロ・コンサート」演奏曲目

オープニング

1. 鳥の歌 ゲリンガス氏のソロ

田久保裕一氏 指揮

2. スズキ・メソード チェロ指導曲集より
(フランス民謡、むすんでひらいて、かすみか雲か)
3. セレナーデ/ラッヒナー作曲
4. 日本の歌/唱歌(浜辺の歌、ふるさと)
5. 書き下ろし新曲/三枝成彰作曲
6. チェロのためのレクイエム/三枝成彰作曲
7. ヒムヌス(讃歌)/クレンゲル作曲
8. パッサカリア/ヘンデル作曲

D. ゲリンガス氏 指揮

9. フラトレス/ペルト作曲
 10. カンタータ「モスクワ」よりアリオオーゾ/
チャイコフスキー作曲
 11. 「原爆」/古屋さおり作曲
 12. レリジョーゾ/ゴルターマン作曲
 13. ブラジル風バッハより「モディーナ」/
ヴィラ＝ロボス作曲
 14. メドレー「広島から世界へ」/
各国代表曲 のメドレー
- 以上、合計約 74 分間

①チケットの種類

- S席(指定席) 前売り 5,000円、当日 5,500円
A席(指定席) 前売り 4,000円、当日 4,500円
B席(指定席) 前売り 3,000円、当日 3,500円
C席(自由席) 前売り 2,000円、当日 2,500円

②販売開始

2009年12月21日(月)より

③購入方法

(1) インターネット

NPO国際チェロアンサンブル協会HPから
e+(イープラス)サイトにログインして直接ロ
グインもできます。http://eplus.jp/sys/main.jsp

(2) Faxで事務局に

申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、
事務局にFaxで申し込みができます。

※電話での受け付けは行なっていません。

④会員特典

NPO国際チェロアンサンブル協会の会員の方
はFaxで直接事務局に申し込んでいただきます
とA.B.C席に限り40%の割引で購入できます。

⑤出演者特典

第4回1000人のチェロ参加者(出演者)の方
はチケットを定価の20%引きで購入できます。

⑥参加申込早割り

2009年12月31日までに参加申し込みをされ
た方には「第4回1000人のチェロ・コンサート」
のチケットC席(自由席)を1枚プレゼントし
ます。お急ぎください。

第5回 チエロ アンサンブル コンテスト inかさおか

チエロアンサンブル・コンテ
ストは、2002年に笠岡チエ
ロフェスティバルの一環とし
て行なわれたことがきっかけ
となって、2004年に1回
目の「inかさおか」が開催さ
れました。

その第5回「チエロアンサ
ンブル・コンテスト inかさお
か」が、昨年引き続き「チエ
ロアンサンブル・コンテスト
inかさおか実行委員会」・「い
かさお市民音楽協会」と「NPO
国際チェロアンサンブル協
会中国支部」が主催、「NPO
国際チェロアンサンブル協会」
が特別協力という形態で、笠岡

市保健センター「ギャラクシー
ホール」において、2009
年5月17日(日)午後2時か
ら開催されました。

参加は、5回連続参加で第
1回目と第3回目に第1位・
第2回目と第4回目に第2位
の「チエロアンサンブル#&
b」(神戸)、5回連続参加で
第3回目に第3位の地元「閑
人会」(笠岡)、第1回目と第
4回目に第2位で過去4回参
加の「大分軍団」(大分)、前
回第1位の「バロックアズ」
(呉)がメンバー交代し、名称
も変更して参加の「JAST」
(呉)、今回新たに参加の「とっ
てもたのしくなっちゃうへな
ちよこアンサンブルの会」(神
戸)の計5団体32名でした。

今回も、審査委員長に松下
修也先生をお迎えしての審査
の結果、上位3団体がほぼ横
一線でしたが、わずかな差で、
第1位が「JAST」、第2位
が「大分軍団」と「チエロア
ンサンブル#&b」という結
果でした。

コンテスト前日は、午後1
時から同ホールでリハーサル
を行ない、午後6時から松下
修也先生を囲んで、有志によ
る懇親会を開催しました。

コンテスト終了後は、上位3
団体の表彰の後、審査委員長
の松下修也先生から詳しい講
評をいただき、第1位団体に
よる受賞記念演奏も行なわれ
ました。前回同様、コンテス
ト終了後表彰までの約30分間、
自由参加による即興演奏であ
るチエロアンサンブル・サロ
ンも舞台の前で行ないました。

その後、松下先生を始めコ
ンテスト参加者や関係者が一
緒に打ち上げを行ない、今後
も、1000チェロのない年
には毎年5月の第3日曜日に
開催することを決定しました。
また8月には、地元のCAT
Vである「笠岡放送」による
テレビ放映もありました。
次回も、新たな参加団体が増
えることを願っています。ふ
るってご参加ください。

中村幸太郎《No.010074》



三枝成彰「チェロのためのレクイエム」を演奏して
第1位を得た JAST(呉)～乗本幸、南村潤、都志彩、
松本巧



久石譲作曲、藤井昌弘編曲の「おくりびと」で第2
位のチエロアンサンブル#&b(神戸)～藤井昌弘、
樋口真浩、山田光、高嶋明子



スカルラッチ作曲「グラヴェとメヌエット」で
同じく第2位の大分軍団(大分)～白沢史子、河野
いずみ、石橋和子、白沢あいら、馬場良子



「大きな古時計」と「崖の上のポニョ」を演奏したとっ
てもたのしくなっちゃうへなちよこアンサンブルの
会(神戸)～石井陽子、吉岡哲、辻村洋子、永富恭子、
吉岡直子、山川尚美、松嶋ひろみ



「五木の子守唄」「竹田の子守唄」「夜のとばり」「はにゅうの宿」を演奏した地元の閑人会(笠岡)～木村直子、
赤井清晃、田辺幹夫、甲田愛、中村幸太郎、湯浅順子、永山恭子、福尾俊秀、宮田美幸、中村康乃理、中野孝重、
枘田かな



20数名が参加したチエロアンサンブル・サロンは即興での演奏を堪能しました

ロストロポーヴィチ国際チェロ・コンクールで、宮田大さん優勝



4年に一度パリで開催されるロストロポーヴィチ国際チェロ・コンクールにおいて、スズキ・メソード出身で倉田澄子さんに師事し、現在はクロンベルクアカデミーでフランス・ヘルマーソン先生に師事する宮田大さん(23歳)が見事優勝しました。宮田さんによると、「完璧を目指すよりも、自分の音楽性を皆さんに楽しんでもらおうと思ったのが結果につながった」とのことです。宮田さんが予選から本選を通じて演奏した10曲は、以下の通りです。

First Round Bach:Prelude and Gigue from the 6th Suites for Solo Cello、Ligeti:Cello Sonata

Second Round Debussy:Sonata for cello and piano in D minor、Popper:Elfentanz opus 39、Tanguy:work for solo cello、Mendelssohn:Sonata for cello and piano No.2 in D major op.58

Final Round Cassado:Suite 1&3、Popper:Hungarian Rhapsody、Odaka:Nocturne (Yakyoku)、Dvořák:Cello Concert in B minor op.104

New Face

新見三千子 (神戸出身 長野県在住 会員番号 010367)

私がチェロを始めたのは大変遅く、遷暦を迎えるに当たり新しく「何かに挑戦しよう」と選んだのがチェロでした。鍵盤楽器の世界しか知らず、4本の弦がどのように使われるか？そして何よりあの美しい音色に魅せられていたからです。ただしこれは大いなる誤算で、弾き手が良くなればどんな名器も美しい音は出ないことを悟り、後々悩み、苦勞する日を重ねることになりました。その後チェロの先生のご指導で楽しくレッスンを重ね、思いがけず神戸の1000人のチェロ・コンサートに参加させていただきました。

神戸は子どもの頃の思い出が一杯詰まった地ですが、戦争のため、散り散りになった幼稚園、小学校時代の友が5人も聴きに来てくださり、「1000人のチェロ」の響きを共有できたことは心から感謝です。

次回は広島とのこと。広島は夫の両親の故郷。戦災で四谷の家を焼かれ広島に疎開。当時府立一中の1年生だった弟が転校したばかりの広島一中で同級生とともに被爆、変形したお弁当箱が唯一の形見となったと聞いております。その日、心を込めて鎮魂の演奏に参加させていただけるようお願いしつつ、これからも細々ながら練習を続けたいと思います。

2008年、カザルスホールでのイクシオン・トリオの元気一杯の演奏も印象的でした。打ち上げパーティの折、マリアさんが指の形を教えてください、偶然同じホテルに宿泊した御縁で翌朝お見送りの折、マリアさんが私の側までいらして挨拶してください、温かいお人柄を感じました。チェロを通し、演奏を通して、積極的に人間愛に溢れた御活躍をなさっていらっしゃるお姿は朝陽の中、美しく輝いて見えました。



マリアさんに手ほどきを受ける新見さん

私自身この後、限られた時間を少しでも有意義に、チェロを愛しつつ、日々を大切に励みたいと願うばかりです。

「末松悦子さんを偲ぶ会」を8月1日に池上会館で開催しました。



会場には、末松さんの遺影とともに愛用のチェロも持ち込まれました

東京在住の会員で、第3回1000人のチェロ・コンサートなどでも、多大なるお手伝いをいただいた『末松悦子さんを偲ぶ会』が、8月1日に東京の池上会館で開催されました。

集まったのは43名(うち演奏参加者27名)でした。首都圏以外からも、秋田、新潟、神戸、笠岡、大分など、たくさんの地域からお集まりいただきました。時間があまりなく、少ししか練習ができなかったのですが、私たちのチェロの響きは、きっと天国の悦子さんに届いたことと思います。参加者でICESの理事でもある寺田義彦先生に悦子さんのチェロを弾いていただいたり、皆で悦子さんとの思い出の写真を持ち寄り…。

そして何よりご主人様の涙に誘われ、皆の思いが1つになって、心のこもった暖かい会となりました。ICESの活動に、また1つ素晴らしい時間を刻むことができました。

参加いただいた方はもちろんですが、スタッフとしてご協力いただきました皆さま、本当にありがとうございました。最後のなりましたが、当日の演奏をまとめて下さった佐久間先生に、心よりお礼申し上げます。

田原光子(理事)



思い出の写真や追悼メッセージも展示されました



佐久間先生に指導していただきました



寺田先生に末松さんのチェロを弾いていただきました



全国から駆けつけての演奏で、皆の思いを託しました

広島での「1000人のチェロ・コンサート」前に、おすすめの本



平和を希求したカザルスの願いを、この機会に味わってみませんか？ 著者はカザルスに直接レッスンを受けた井上頼豊氏。冒頭、1971年10月24日のニューヨークの国連総会会議場でのカザルスの有名な演奏シーンから始まります。カザルスが作曲した「国際連合への讃歌」が演奏され、指揮台をおりたカザルスが静かにステージの前面に歩み寄り、こう語りかけました。「私は、もう14年もチェロの公開演奏をしていませんが、今日は弾きたくなりました」と、愛用のチェロを手にとって、弾いたのが《鳥の歌》でした。

ファシストによる祖国スペインの独裁に抗議し亡命生活のまま世を去ったカザルス。この巨匠が国連で奏でた《鳥の歌》の深い音色は平和への思いを世界に鳴り響かせました。

井上氏によるカザルスの生涯を綴ったこの本は、すでに版元では品切れですが、街中の図書館などに埋もれている場合があります。どうぞ探してみてください。岩波書店ブックレット No.212 1991年出版 350円